

賀 茂 地 区

1 研修会 年間3回実施（他に各支部ごと4～6回実施）

【テーマ】 感じよう心と体、めざそう健やかな生活

No.	研 修 内 容	主 催 者	備 考（講師・運営）
1	7月 4支部の研修計画等情報交換 東賀 チーム学校に向けた養護教諭の専門性を生かした取り組み 下田 子どもたちの安全・安心をめざした学校保健活動 南伊豆 保健室から発信する安全・安心な学校づくり 西豆 危機管理能力の育成・向上を目指した学校保健活動	賀茂教育研究会	支部ごとテーマを設定
2	11月 講習会「感染症予防について」* 代表者研修会報告、執務上の問題点について	地区学校保健会	*かわづクリニック 院長 鈴木和重氏
3	3月 4支部の研修報告、活動の反省	賀茂教育研究会	

2 昨年度の研修の紹介

賀茂地区内の小児科医 鈴木和重氏を迎え、「学校における気管支喘息・食物アレルギー対応」をテーマに研修を行った。小児科医の専門的立場から講演をいただき、日頃の執務の中で判断に迷うことや疑問に感じることを相談できる貴重な研修となった。

3 地区での問題点・課題

4支部に分かれ研修を進めているが、広範囲のため地区としての研修を深めることが難しい面もある。少ない研修機会の中で、情報交換を積極的に行い、地区として質の高い研修を目指していきたい。

田 方 地 区

1 研修会 年間9回実施

【テーマ】 自分で判断し、人とかわりながら 適切に行動できる子を目指して

No.	研 修 内 容	主 催 者	備 考（講師・運営）
1	5月 年間計画立案	田方地区教育研究会	
2～5	6月 7月 8月 10月 全体研修 グループ研修	田方地区教育研究会	
4	8月 講演会*	田方地区学校保健会	*静岡大学 教育学部
6	11月 グループ研修	田方地区教育研究会	教授 鎌塚優子氏
7～9	12月 1月 3月 グループ研修	田方地区教育研究会	

2 昨年度の研修の紹介

健康な生活を送るために必要な力「心身の健康に関する知識・技能」「自己有用感・自己肯定感」「自らの意思決定・行動選択する力」「他者と関わる力」を身につけるために、地域の実情に応じてテーマを設定し、「つなぐ・つなげる」を意識して、様々な方向からアプローチする実践を行い、成果と課題を確認した。

3 地区での問題点・課題

限られた研修回数であるが、情報交換・グループ研修・講演会などを取り入れ、時間を有効に使えるよう工夫している。函南町・伊豆の国市・伊豆市の二市一町と地区の研修や活動があり、グループ研修も地区ごとに分かれることが多く、地区全体の組織力や資質向上を図る必要がある。

東 豆 地 区

1 研修会 年間3回（各市ごとの研修は更に月1回程度開催）

【テーマ】 熱海 学習指導要領と養護教諭が行う保健教育

伊東 心も体も生き生きと生活できる子どもの育成

No.	研 修 内 容	主 催 者	備 考（講師・運営）
1	6月 代表者研修会報告* ¹ 新型コロナウイルス感染症対応の 情報交換	東豆教育研究会	* ¹ 今年度は代表者での小規模開催
2	11月 代表者研修会報告* ² 事例検討会 「医療機関へ繋ぐ事故への対応」	東豆教育研究会	* ² 状況によっては変更もあり
3	3月 代表者研修会報告* ³ 熱海・伊東研修報告 熱海・伊東地区別研修	東豆教育研究会	* ³ 状況によっては変更もあり

2 昨年度の研修の紹介

日本スポーツ振興センター名古屋業務推進課主任専門職 中山峰弘氏を講師に迎え、「学校管理下における事故事例とその対応について」をテーマに研修を行った。事故事例や事故後の対応、事故防止のための啓発資料などを紹介していただき大変有意義な研修会となった。

3 地区での問題点・課題

2地区に分かれ、それぞれのテーマで研修を行っている。一堂に会し研修を持てる機会は少ないが、メール等を活用して情報交換を行い、地区全体の組織力や資質向上を図りたい。

三 島 地 区

1 研修会 年間4回実施

【テーマ】 児童生徒保健委員会が自主的・主体的に取り組み、全校に広げる健康づくり

No.	研 修 内 容	主 催 者	備 考（講師・運営）
1	4月 本年度の研修計画、方向性について（紙面）		
2	7月 全体研修	三島市教育委員会	
3	10月 全体研修	三島市学校保健研修会	
4	11月 全体研修	三島市教育委員会	
5	2月 研修のまとめ	三島市教育委員会	

2 昨年度の研修の紹介

令和2年度の静岡県学校保健研究大会（三島地区大会）実践発表に向けて、仮説に迫るための実践を各校で試み、その内容をグループ研修にて共有した。また、養護教諭のスキルアップのため、講演会を2回実施し、主体性を伸ばすためのコーチング的な考え方についてと、ポスターや掲示物・お便り等をより効果的なものにするための工夫について学んだ。

3 地区での問題点・課題

情報機器を活用しながら積極的に情報交換を行うことで、養護教諭としての資質向上を図り、地区全体での研修の充実を目指していきたい。

駿 東 地 区

1 研修会 年間4回実施

【テーマ】 支部ごとにテーマを決めて実施

No.	研 修 内 容	主 催 者	備 考 (講師・運営)
1	6月 養護教諭(代表者)研修会(代表者研修会報告) 中体連救護についての確認	地区教育協会	
2	8月 養護教諭(代表者)研修会	地区教育協会	
3	8月 学校保健研修会 ^{*1}	地区教育協会	*1中止
4	11月 保健主事・養護教諭合同研修会(講演) 「一枚の紙、はさみで描く 寄り添う心」 ^{*2}	地区教育協会	*2紙切り作家 水口ちはる氏
5	11月 地区学校保健研究大会 ^{*3}	地区学校保健会	*3中止
6	3月 養護教諭研修会	地区教育協会	

2 昨年度の研修の紹介

養護教諭の資質向上を目指し、大草心理・臨床教育相談室の大草正信氏に講演をしていただいた。「ながら対話」の実践を聞き、二次意識の思いを作り出すことが子供の変容に必要であることを学ぶことができ、有意義な研修となった。

3 地区での問題点・課題

限られた研修回数であるが、情報交換を積極的に行うなかで会員相互の連携・資質向上に努めていきたい。

沼 津 地 区

1 研修会 年間15回実施

【テーマ】 小中一貫教育をふまえた保健教育

No.	研 修 内 容	主 催 者	備 考 (講師・運営)
1・2	4月 研修計画作成・三部合同研修会		
3	5月 健康教育研修会 講演会		新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催を中止した研修会 (No.1~8、13)
4・5	6月 グループ別研修・校区別研修		
6	7月 全体研修 1学期の反省		
7	7月 夏季講演会		
8	7・8月 グループ別研修	沼津教育振興会	
9	10月 グループ別研修	沼津市学校保健会	
10・11	11月 グループ別研修・二部合同研修会		
12	12月 全体研修 日常執務の反省		
13	1月 校区研修		
14	2月 グループ別研修		
15	3月 1年間の反省		

2 昨年度の研修の紹介

令和元年度より「小中一貫教育をふまえた保健教育」をテーマに、3年計画で研修を進めている。沼津市全体で、義務教育9年間を通して子供を育てるという視点を大切に、「性教育」「心の教育」「危機管理」「教科保健」「ほけんだより」の5グループで研修を深めた。

3 地区での問題点・課題

地区全体の組織力の向上を目指すことはもちろんのこと、若手会員も多いので、会員相互の連携・共通理解を深め、養護教諭の資質や力量の向上にも努めていきたい。

富士地区

1 研修会 年間6回実施

【テーマ】 生涯にわたり心豊かで健やかに生きる子

～小中一貫した健康教育で、健康意識の向上をめざす～

No.	研修内容	主催者	備考(講師・運営)
1	5月 全体研修会	富士市教育研究推進会	中止
2	臨時全体研修会(コロナ対応)	富士市教育研究推進会	小中で会場を分散して実施
3	6月 班別研修	富士市教育研究推進会	班ごと会場を分散して実施
4	7月 視察研修・班別研修 ^{*1}	富士市学校保健会	中止 ^{*1} 県立吉原林間学園
5	8月 講演会・班別研修 ^{*2}	富士市教育研究推進会	中止 ^{*2} 静岡大学教育学部 教授 鎌塚優子氏
6	11月 市内一斉授業研	富士市教育研究推進会	中止
7	12月 班別研修	富士市教育研究推進会	
8	1月 講演会(耳鼻科医より) ^{*3}	富士市学校保健会	^{*3} 保健主事との合同研修会
9	2月 全体研修(班別研修の発表)	富士市教育研究推進会	
10	3月 全体研修(反省と次年度の確認)	富士市学校保健会	

2 昨年度の研修の紹介

8月は静岡大学の鎌塚優子氏から富士市の研究テーマに沿った「発達の連続性をふまえた健康教育の在り方—小中間・地域連携の重要性」、1月は保健主事との合同研修会で、市内の脳外科医から「頭部外傷」「頭痛」対応についての講演をしていただき、実践に生かせる有意義な研修となった。

3 地区での問題点・課題

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全体研修が分散での実施となったり、中止となったりして研修の機会も減ってしまった中で、各班でコロナ禍における健康課題について実践に役立つ研修を充実させていきたい。

富士宮地区

1 研修会 年間10回実施

【テーマ】 生きる力をはぐくむ健康教育

～学校運営を意識した小中連携による学校保健活動を目指して～

No.	研修内容	主催者	備考(講師・運営)
1	6月 第1回健康教育研修会 ^{*1} 研修計画・感染症対策	富士宮市教育委員会	^{*1} 健康教育研修会： 中学校区班別研修 校種別グループ研修
2	7月 第2回健康教育研修会 ^{*1・2}	富士宮市教育委員会	^{*2} 「学校現場での消毒薬と 使用について」 学校薬剤師 寺田正嗣氏
3	8月 第3回健康教育研修会 ^{*1}	富士宮市教育委員会	
4	10月 第4回健康教育研修会 ^{*1}	富士宮市教育委員会	
5	12月 学校医及び養護教諭合同研修会 及び第5回健康教育研修会	富士宮市教育委員会	
6	1月 第6回健康教育研修会 ^{*1}	富士宮市教育委員会	
7	2月 学校歯科医及び養護教諭合同研修会及び 第7回健康教育研修会	富士宮市教育委員会	

2 昨年度の研修の紹介

小学校21校、中学校13校、計34校を中学校区で6つの班に分け、テーマを決めて研修を進めてきた。保健調査票に記載されているデータのシステム化や、LGBT、小中連携の学校保健委員会の取組など多岐に渡っている。

3 地区での問題点・課題

各学校のグランドデザインを具現化するために、養護教諭が関わるカリキュラムマネジメントについて、中学校区の班別研修で連携し、情報交換をしながら研修を深めていきたい。

静岡 地 区

1 研修会 市全体研修会・年間3回実施（他に支部ごと8～10回実施）

【テーマ】 生きる力と豊かな心を育む健康教育をめざして

No.	研 修 内 容	主 催 者	備 考（講師・運営）
1	8月 第1回市養護教諭研修会* ¹ 「コロナ時代の学校と医療の役割」	静岡市教育委員会 静岡市養護教諭研究会	* ¹ 静岡厚生病院 小児科医 田中敏博氏
2	10月 第2回市養護教諭研修会* ² 「養護教諭の専門性」 ～養護教諭の資質向上を目指す～	静岡市教育委員会	* ² 静岡大学教育学部 教授 鎌塚優子氏
3	3月 第3回市養護教諭研修会 講義と支部研修報告	静岡市教育委員会 静岡市養護教諭研究会	
支部	支部ごとに、支部の研修テーマに沿った研修を計画的に行う。	静岡市校長会 静岡市養護教諭研究会	支部ごとに企画、運営し、実践集録にまとめる。

2 昨年度の研修の紹介

8月に静岡市こころの健康センター、精神保健福祉課の方に「ゲートキーパー研修」、常葉大学保育学部 赤塚めぐみ氏に「養護教諭だからできる子どもの対応」、10月に横浜国立大学教育学部 物部博文氏に「養護教諭の行う保健教育の実際」と題して講話をしていただいた。3月は中止した。

3 地区での問題点・課題

令和4年度全市一斉スタートに向けて、静岡市型小中一貫教育の取組が進む中、今年度は感染症対策が重要課題である。「チーム学校」の養護教諭として学校経営にどのように参画していくかを念頭におき、職務の推進について研修を深めていきたい。

志 太 地 区

1 研修会 年間4回実施

【テーマ】 心身共に健康で、活力に満ちた児童生徒の育成

～子どもの「こころとからだ」の健やかな成長を目指して～

No.	研 修 内 容	主 催 者	備 考（講師・運営）
1	6月 志太地区学校保健会研修会Ⅰ* ¹ 志太地区養護教諭研究会総会① (保健会は中止、研究会は紙面開催)	志太地区学校保健会 志太地区養護教諭研究会	* ¹ 株式会社「えて」 安池中也氏 「多様性を生きる子どもたちに大切なこと」
2	7月 中学校・高校養護教諭合同研修会	志太地区養護教諭研究会	今年度は名簿交換のみ
3	8月 志太教育研究集会「学校保健部」 研修会（中止）	志太地区教育協議会	
4	12月 志太地区学校保健会研修会Ⅱ* ² 志太地区養護教諭研究会研修会②	志太地区学校保健会 志太地区養護教諭研究会	* ² 研修会Ⅰの講師を予定

2 昨年度の研修の紹介

講師を招いての研修では、「色覚」と「脳脊髄液減少症」について学ぶ有意義な会となった。また、執務資料として、各校の「虎の巻～あって便利なものパート2」についてまとめ、共有できた。

3 地区での問題点・課題

インフルエンザ罹患に伴う治癒証明書の取り扱いは、検討が進んでおらず、今後の課題となっている。全体で集まったの研修時間は限られている。3市それぞれの状況確認や情報交換を研修会以外の方法でも積極的に行い、他市の取組を参考に、今後も連携を深め、資質向上を図っていきたい。

榛 原 地 区

1 研修会 年間4回実施

【テーマ】 しなやかに人とかかわりながら前向きに生きていこうとする子～保健室からのアプローチ～

No.	研 修 内 容	主 催 者	備 考 (講師・運営)
1	6月 総会（紙面開催） 及び第1回研修会（市町開催） 研修計画、執務研修	榛原地区養護教諭研究会	
2	8月 第2回全体研修会 執務研修、グループ研修	榛原地区養護教諭研究会	
3	10月 第3回全体研修会 執務研修、グループ研修	榛原地区養護教諭研究会	
4	2月 第4回全体研修会 研修報告、グループ研修	榛原地区養護教諭研究会	

2 昨年度の研修の紹介

養護教諭の資質向上を目指し、山口久芳氏（元静岡大学大学院特任教授）より『近未来の教育を考える～keypersonは養護教諭』と題し、講演をしていただいた。「多様性の宝庫」である保健室から自己肯定感を育むことができるような発信の仕方について、日常執務をふり返りながら学ぶことができた。

3 地区の問題点・課題

新型コロナウイルス感染症対応に伴い、限られた研修会の機会ではあるが、代表者や研修委員を中心に情報交換や研修を行い、会員の資質向上に努めていきたい。

小 笠 地 区

1 研修会 年間3回実施

【テーマ】 (1) 健康教育推進者としての力量を高め、専門性、独自性を活かした資質の向上に努める。
(2) 小笠地区養護教諭研究会の組織の活性化を図る。

No.	研 修 内 容	主 催 者	備 考 (講師・運営)
1	6月 第1回全体研修会 研修計画・顧問校長講話	小笠地区養護教諭研究会	紙面報告
2	8月 第2回全体研修会 ^{*1} （1日から半日に変更） 「育成と連携」 ～養護教諭の資質向上を目指す～	小笠地区養護教諭研究会	^{*1} 講話（延期） 「多様な性を知ろう」 講師 永田 怜氏
3	11月 学校保健研究部一斉研究報告会 「自分の身体と主体的に向き合う子どもの育成」 ～発達段階に応じた切れ目のない健康教育～	小笠教育研究協会 学校保健研究部	紙面報告

2 昨年度の研修の紹介

浜松医科大学大学院助産学分野教授 武田江里子氏より「ソーシャルスキルの基本 あるがままの自分」、掛川東病院理学療法士 名倉達也氏より「熱中症対応・けがの予防と対策」、おもしろ健康教育研究所所長 伊藤純子氏、副所長 高橋佐和子氏より「手応えのある健康教育のコツ～児童生徒の行動変容を促す5つのアプローチ～」と題した講話をしていただいた。養護教諭の資質を高める研修となった。

3 地区での問題点・課題

若年層の養護教諭が年々増えているが、今年度のような危機管理が必要な事態では、年齢や経験を越えた繋がりが一層必要となってくる。研修を積み重ね、連携し高め合う組織を目指したい。

磐 周 地 区

1 研修会 年間3回実施

【テーマ】 ころごしをもって、たくましく生きる力を育てる健康教育
～「縦の接続」「横の連携」による取組～

No.	研 修 内 容	主 催 者	備 考 (講師・運営)
1	6月 第1回養護教諭研修会 講演「子どもの多様性の理解と支援」	磐周学校保健会	中止*常葉大学 赤塚めぐみ氏
2	11月 第2回養護教諭研修会 講演「コロナウイルス感染症の 予防対策と最新情報」 グループ研修(校区・校種交流)	磐周教育研究会	磐田市立総合病院 出前講座
3	3月 第3回養護教諭研修会(講話と実技) 「学校におけるケガの対応と予防について」	磐周学校保健会	アシスト鍼灸整骨院トレーナー

2 昨年度の研修の紹介

中学校区ごとに研修を進め、29年度からの実践をポスターにまとめた。夏には東京学芸大学の渡邊正樹氏の講話を聴き、新学習指導要領における評価方法について学ぶことができた。

研修のまとめ「あゆみ」を元年度は抄録・ポスターで作成したことで、作成方法、発表の仕方を研修することができた。

3 地区での問題点・課題

評価方法の研修、特に新学習指導要領の評価の観点に沿って、児童生徒の変容や実践の成果を評価する方法について、さらに研修を深めていきたい。

湖 西 地 区

1 研修会 年間5回実施

【テーマ】 これからの学校保健の在り方

No.	研 修 内 容	主 催 者	備 考 (講師・運営)
1	6月 第1回 養護教諭研修会 (保健室経営計画・手引き見直し)	湖西市教育会	
2	7月 第2回 養護教諭研修会 (感染症対策)	湖西市教育会	
3	12月 第3回 養護教諭研修会 (学校保健の問題点)	湖西市教育会	
4	1月 学校保健研修会(情報交換)	湖西市学校保健会	
5	2月 養護教諭研修会(次年度に向けて)	湖西市教育委員会	

2 昨年度の研修の紹介

特別な支援を必要とする児童生徒への養護教諭の関わり方や、他機関との連携について研修をした。事例検討では、各校の事例を持ち寄り問題の背景分析や解決のための手立てを考えた。また、保健主事との合同研修会では、静岡県立天竜特別支援学校から講師をお招きし、「発達障害を持つ子への支援について」の講話を聴くことができた。支援学校での授業や生活支援の方法について研修し、支援学校へ転出するまでの支援や復学に向けた支援についても学ぶことができた。

3 地区での問題点、課題

感染症対策では、効率よく効果的に進められるように、最新の情報を確認しながら対応していく必要がある。地区全体で情報を共有し、実践してきたことをまとめて今後に生かしていきたい。

浜 松 地 区

1 研修会 年間11回実施

- 【テーマ】 (1) すこやかな心と体 命を大切にできる子の育成
 (2) 養護教諭の資質向上を目指して

No.	研 修 内 容	主 催 者	備 考 (講師・運営)
1	4月 教育研究協議会	浜松市教育研究会	中止
2	5月 第1回ブロック別研修会 (養護教諭部)	浜松市教育研究会	中止
3	5月 第1回研修会 (保健主事養護教諭合同)	浜松市教育研究会	中止
4	7月 養護教諭研修会	浜松市教育委員会	中止
5	8月 第2回ブロック別研修会 (養護教諭部)	浜松市教育研究会	中止
6	8月 第2回研修会 (保健主事養護教諭合同)	浜松市教育研究会	中止
7	8月 養護教諭部研修会 (講演と中学校区別研修) 講話：動画配信 「学校における医療的ケアについて」 ^{※1}	浜松市学校保健会	^{※1} 浜松市教育総合支援センター 稲川秀子氏
8	10月 養護教諭研修会 「WithコロナAfterコロナがもたらす変化 —新型コロナウイルスを通じて見えてきた養護教諭の専門性とは—」 ^{※2}	浜松市教育委員会	^{※1} 西部特別支援学校 山田恵美子氏 ^{※2} 静岡大学教育学部 教授 鎌塚優子氏
9	11月 第3回ブロック別研修会 (養護教諭部)	浜松市教育研究会	
10	11月 第3回研修会 (保健主事養護教諭合同)	浜松市教育研究会	
11	3月 養護教諭研修会	浜松市教育委員会	

2 昨年度の研修の紹介

浜松市学校保健会養護教諭部研修会では、浜松医療センター 小児科部長 西田光宏氏による「食物アレルギーの基礎と学校管理に役立つ最新情報」を聴いた。アレルギーの基本的な知識、花粉症と果物アレルギーの関係や青魚による仮性アレルギーなど臨床に基づいた話を聴くことができた。また、完全除去よりもアレルゲンを少しずつ摂取していくことで食物アレルギーの発症を防ぐという最新の情報も学ぶことができた。

3 地区での問題点・課題

今後に向けた組織の在り方や若手育成等が課題である。組織会則検討委員会や研究推進委員会を設けて検討を重ね、専門性を持つ養護教諭としての資質能力の向上を目指し、研修の充実に努めている。

